

都城で触れる文化の秋

「芸術の秋」に「読書の秋」。これからの季節、自己啓発をする上でも、最良の季節を迎えます。今回は、都城島津邸と都城市立美術館で開催する特別展を特集します。各施設で「文化の秋」に触れてみませんか。

武士のたしなみ

「天下布武」から「文武両道」へ

戦国時代から江戸時代後期にかけて、武士たちは、いかにして教養を身に着けたのか。今回の特別展では、その時代背景を追うとともに、彼らの残した絵画や古文書などを紹介します。

◎問い合わせ 都城島津邸

☎23-2116

「武」が中心の時代

古来より武士は、武力を持つことに大きな意義を感じていました。武力を持たない貴族の警護だけでなく、他者からの求めに応じて武力を提供。そして時には、自身の領地や権限を広げるために合戦に及ぶこともありました。

とりわけ、鎌倉時代から戦国時代にかけては、「武」に重点を置いていた時代でした。

「武」と「文」、混合の時代

江戸時代になると、武士の生き方に転機が訪れます。徳川幕府の強力な統制の下、一国一城令や参勤交代などの政策により、各地の大名は次第に「武」に傾ける財力と時間を失っていきます。

そして、島原の乱以降、大きな合戦もなくなり、武力を誇示する場もなくなっていくきました。このような背景もあり、身分制度の頂点に立つ者として、武士は「武」のみに偏らず、新たな力を「文」の教養に求めていきます。

徳川将軍をはじめ、藩主や領主は、四書五経などの中国古典籍を学び、書や絵画・和歌などを実践して、多くの作品を残しました。



狩野古信 筆「琴棋書画図屏風」池上本門寺蔵

目玉の展示作品

国指定重要文化財

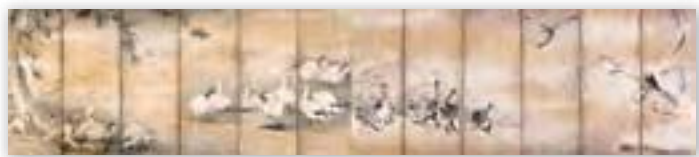
伝宮本武蔵筆

「紙本墨画芦雁図」

江戸初期の剣豪

宮本武蔵が描いたとされる芦雁図屏風。武蔵は「兵法の道」を究めるとともに、さまざまな芸能をたしなみ、教養を身に着けました。

中でも、水墨画は卓越した腕前で、この作品は、武蔵と専門画家との合作と考えられています。



公益財団法人永青文庫蔵 熊本県立美術館寄託

徳川吉宗筆「竹虎図」

享保の改革を行った8代将軍吉宗は、書画にも造詣が深く、奥絵師の狩野常信らに絵の手ほどきを受けました。家臣たちに対して、武芸だけでなく文芸を修めることの大切さを説くなど、文武両道の実践を率先して行いました。



池上本門寺蔵

関連イベント

特別展講演会(無料)
(2016島津発祥まつり関連事業)

- 内容 近世島津家を支えた文芸の力
—いくさなき世の武士のたしなみ—
- 講師 立教大学文学部教授 鈴木彰さん
- 期日 11月13日(日) 開場13時30分
開演14時
- 会場 ウエルネス交流プラザムジカホール

会期

10月15日(土)～11月27日(日)

※会期中、展示替えを1回行います。各史料の展示期

間は、同館ホームページで確認ください

観覧料

一般 400円(350円)

高校・大学生 300円(250円)

中学生以下無料

※()は20人以上の団体料金。本宅の観覧は別途、小学生以上100円

テーマ

- ・都城島津家当主の「武士のたしなみ」
- ・「武治」から「文治」の時代へ
- ・文武両道の実践
- ・島津家当主の文芸



「日本近代洋画の巨匠 和田英作展」

鹿児島県垂水市に生まれ、明治から昭和にかけて日本近代洋画の礎を築いた和田英作（1874～1959）。堅実な写生をもとにした穏やかな画風を生涯守り続け、富士山をモチーフとした風景画や肖像画、バラの静物画などを情感豊かに描きました。今回は、その作品約90点を展示します。

◎問い合わせ 市立美術館
☎25-1447



「薔薇」ポーラ美術館所蔵

会期

10月22日(土)～11月27日(日) ※月曜日休館

時間

9時～17時 ※入館16時30分まで

入場料

一般 800円(600円)、高校・大学生 600円(400円)、中学生以下無料
※()内は前売りなど割引料金

関連イベント

記念講演会「日本近代洋画史における和田英作の足跡」(無料)

- 日 時 11月3日(木) 14時～15時30分
- 場 所 中央公民館視聴覚室
- 講 師 鹿児島市立美術館副館長 山西健夫さん
- 定 員 50人 ※申し込み順

和田英作生誕地と大隅の自然を楽しむバスツアー

- 日 時 11月11日(金) 9時～18時
- 見学先 松下美術館、垂水市内ゆかりの地(アトリエほか)、千本イチョウ、かのやばら園
- 定 員 30人 ※申し込み順
- 料 金 3,000円(食事代など)

学芸員による作品解説

- 日 時 10月29日(土)、11月12日(土)・26日(土)14時～15時
- ※入場にはチケットが必要

若くして注目された才能

13歳頃から洋画の世界に足を踏み入れた和田。黒田清輝が主宰する天真道場で学び、「進歩の速さは一種の天才」と黒田が評したように、素早く技術を吸収しました。黒田が中心となって結成した、新しい洋画の表現を追及する「白馬会」にも参加。同年、藤島武二らと共に東京美術学校西洋画科の助教授に迎えられます。

その後、3年間のフランス留学を経て帰国した和田は、展覧会の審査員などを歴任し、早くから洋画壇の中心で活躍しました。

日本洋画壇の重鎮

要職を務める一方で、自身も画家として、文展や白馬会への出品を続けました。2度目の留学の後も中央画壇で活躍。黒田が他界すると、その後継者として時代のけん引役となります。



「渡頭の夕暮」東京藝術大学所蔵

第11回都城市市民意識調査

ふれあいアンケート結果

市では、市民の皆さんの意見を市政に反映させるため、6月に「都城市市民意識調査(ふれあいアンケート)」を実施しました。調査に協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

今回は、20歳から79歳までの約12万人の市民の中から無作為に選んだ4,000人を対象に、本市の住み心地や総合計画、住宅用火災警報器、公立公民館、こころの健康、子育て支援と少子化対策、都城市総合文化ホール、市政に対する意見について調査を行いました。

回答者は1,349人で、回答率は33.7%でした。なお、詳細な結果を、市ホームページで紹介しています。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

●男女別

性別	回答者	比率
男性	560人	41.5%
女性	769人	57.0%
無回答	20人	1.5%
計	1,349人	100.0%

●年代別

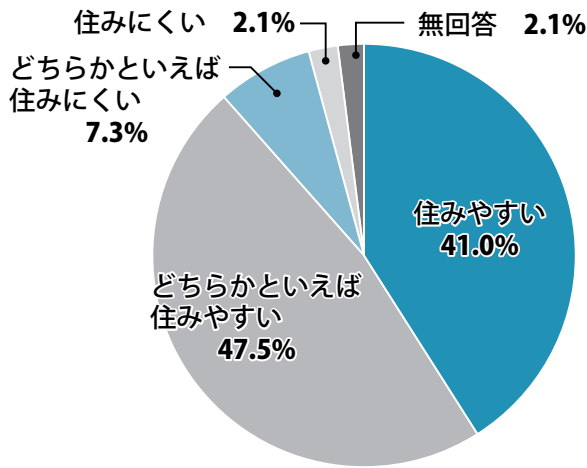
年代	回答者	比率
20代	99人	7.3%
30代	148人	11.0%
40代	189人	14.0%
50代	248人	18.4%
60代	367人	27.2%
70代	280人	20.8%
無回答	18人	1.3%
計	1,349人	100.0%

●地区別

地区	回答者	比率	地区	回答者	比率
姫城	113人	8.4%	庄内	54人	4.0%
小松原	94人	7.0%	西岳	18人	1.3%
妻ヶ丘	156人	11.6%	中郷	72人	5.3%
祝吉	146人	10.8%	山之口	64人	4.7%
五十市	138人	10.2%	高城	71人	5.3%
横市	113人	8.4%	山田	66人	4.9%
沖水	108人	8.0%	高崎	48人	3.6%
志和池	53人	3.9%	無回答	35人	2.6%
			計	1,349人	100.0%

都城の「住み心地」

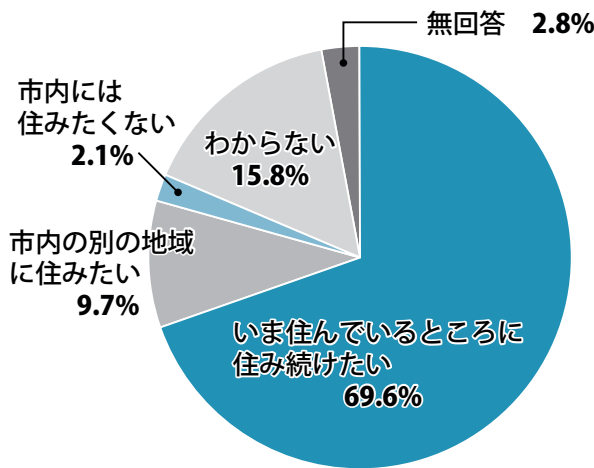
Q 都城の住み心地をどう感じていますか



●解説

本市の住み心地については、88・5割の人が「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と回答していて、前年度より1ポイント低くなっています。年代別で見ると「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した人は60代の90・2割が最も多く、次いで40代、50代の順となっています。

Q これからも都城に住み続けたいですか



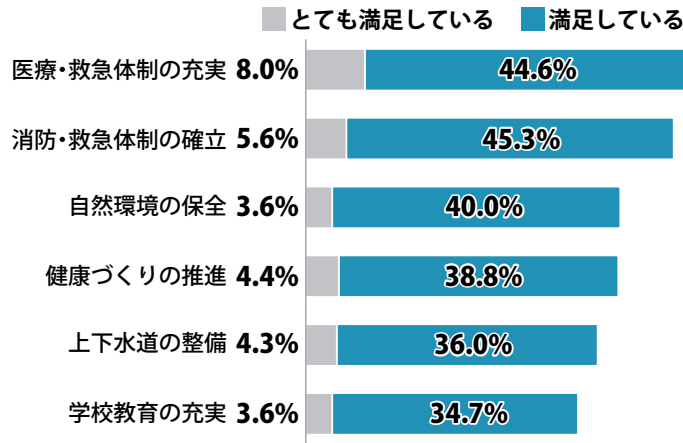
●解説

回答者のうち、79・3割の人が「いま住んでいるところに住み続けたい」、「市内の別の地域に住みたい」と回答して、前年度の調査より3ポイント低くなっています。地区別で見ると「志和池」の79・2割が最も多く、次いで「中郷」の76・4割、「五十市」の76・1割、「横市」の75・2割、「山之口」の75割の順となっています。

総合計画

Q

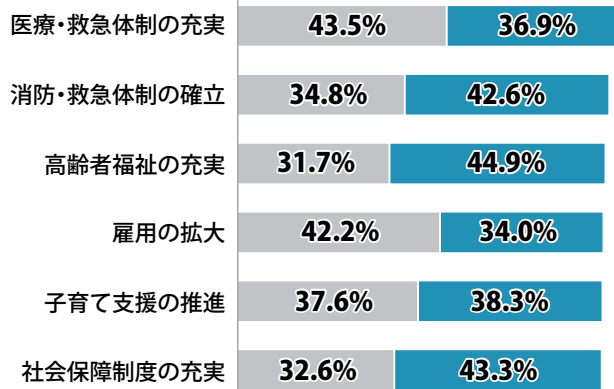
現在、本市が進める新たな総合計画の策定について、43項目の満足度や今後の重要度をどのように感じていますか（上位6項目）



●解説

「とても満足している」「満足している」の合計で最も高かった項目は「医療・救急体制の充実」で52・6割となりました。次いで「消防・救急体制の確立」50・9割の順となっています。逆に満足度の合計が低かった項目は「雇用の拡大」が最も低く13・6割となっており、「中山間地域対策の充実」

■とても重要である ■重要である



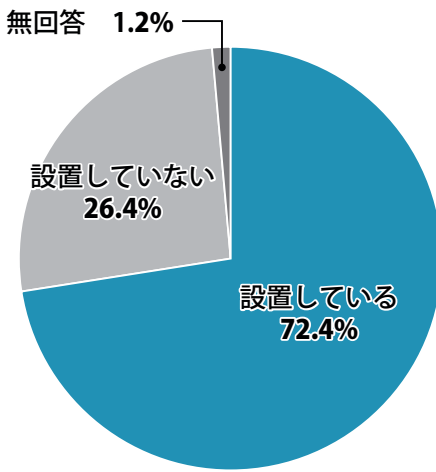
14・8割、「少子化対策」14・9割、「魅力ある市街地の整備」の16・8割がそれぞれ低くなっています。

また、「とても重要である」「重要である」の合計で最も高かった項目は「医療・救急体制の充実」で80・4割となりました。次いで、「消防・救急体制の確立」77・4割の順となっています。

住宅用火災警報器

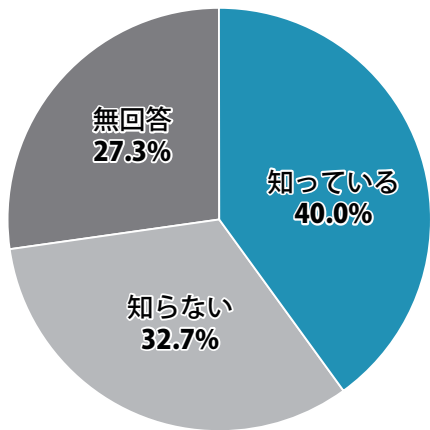
Q

住宅用火災警報器（以下、警報器）を設置していますか



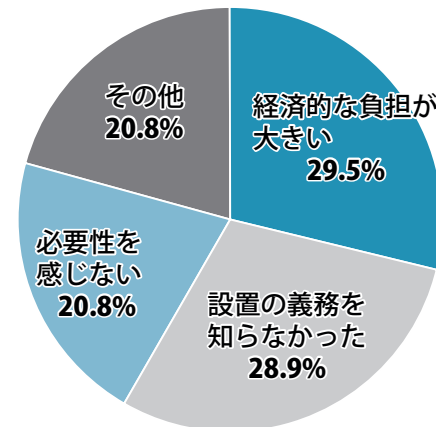
Q

警報器は、製造または設置から10年を目安に交換が必要なのかを知っていますか



Q

警報器を設置していない理由は何ですか



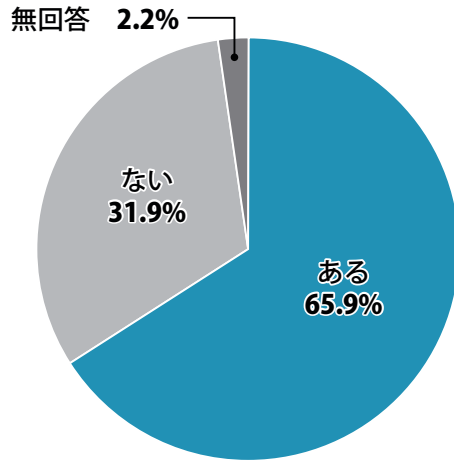
●解説

消防法の規定で設置が義務付けられている、警報器の設置状況について調査しました。

警報器を「設置している」との回答は72・4割で、その中で製造または設置してから「10年を目安に交換が必要である」ことを知っている人は40割、さらに、最近半年間に「作動確認をしたことがある」と回答した人は18・1割でした。逆に、「設置して作動確認をしたことがない人」は、「方法は知っているが、確認をしたことがない人」を含めて54・2割となっています。

公立公民館

Q これまでに公立公民館（地区公民館）を利用したことがありますか



●解説

公立公民館での活動実態、意向などを調査し、今後の施設整備の参考にするために調査しました。これまでに「公立公民館を利用したことがある」と回答した人は65・9割となっていて、利用した目的として1番多かったのは「話し合い・会議」の25・4割でした。次いで「地区まつりなどのイベント」24割、「各種講演会・研修会・説明会」13・9割の順になっています。また、平成27年中の利用回

Q 公立公民館を利用した目的は何ですか



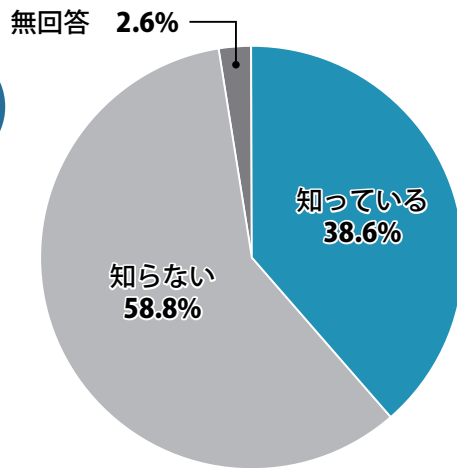
数で最も多かったのは「年に数回程度」との回答で、52割となっています。

公民館利用の際にあるといい設備は、「多目的ホール」19割、「図書コーナー」16・7割、「自由に談話できる空間」16・5割となりました。

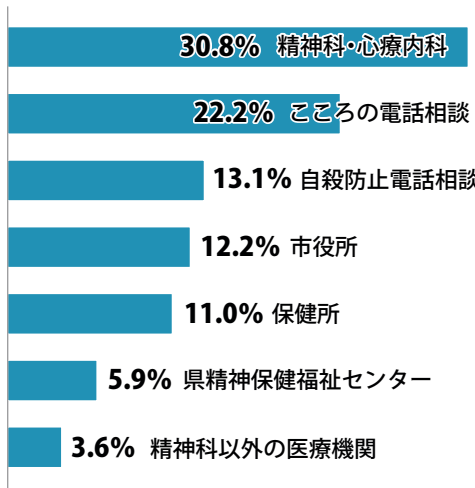
また、公立公民館が実施する事業で、参加してみたいと思うものは「健康に関する事業」の25・8割が最も多くなっています。

こころの健康

Q 「こころの悩み」の相談先を知っていますか



Q 悩みの相談先として知っている窓口はどこですか

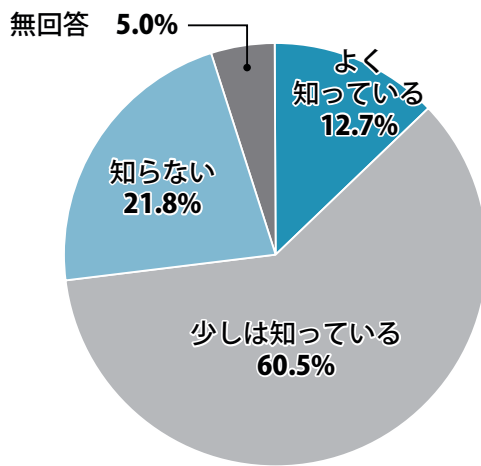


●解説

市民の皆さんの「こころの健康」を保つための手段などについて調査しました。

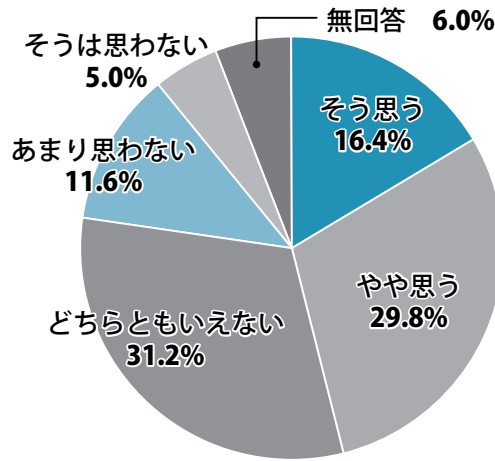
「こころ」の悩みについて、その相談先を「知っている」人は38・6割、「知らない」人は58・8割と知らない人が多い結果となりました。また、「うつ病のサインを知っていますか」の問いに対しては、「よく知っている」「少しは知っている」の合計が73・2割となりました。

Q 自殺で亡くなった人は、うつ病の人が多くと言われています。「うつ病のサイン」を知っていますか

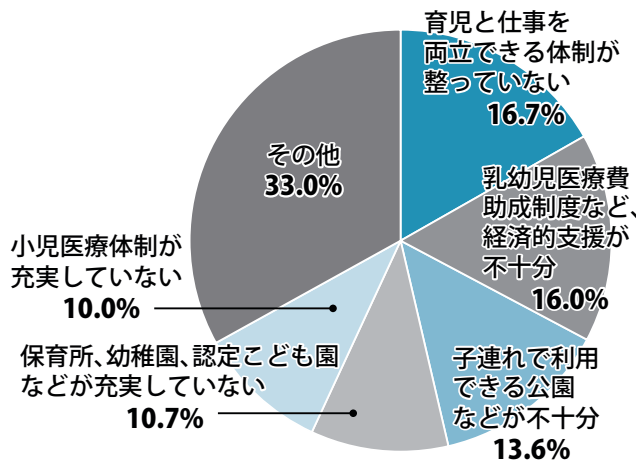


子育て支援と少子化対策

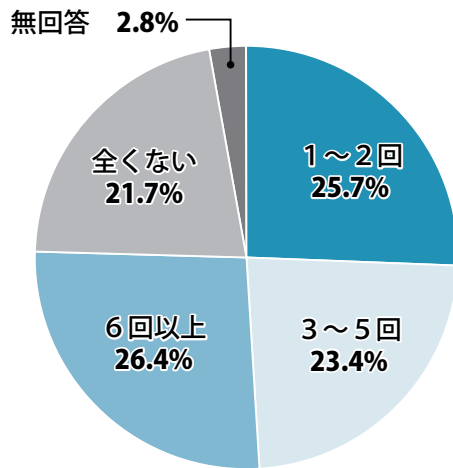
Q 子育てしやすい、または、子育てに優しいまちだと思いますか



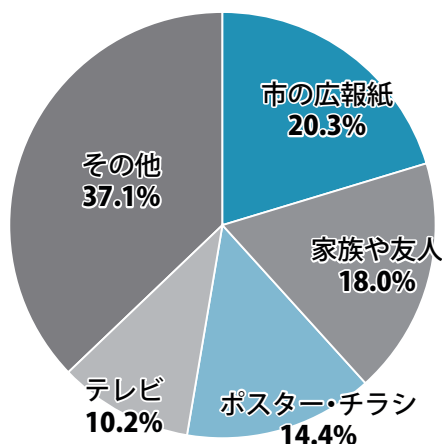
Q 「あまり思わない」、「そうは思わない」と回答した人がそのように思う理由



Q MJを利用、または来館したことがありますか



Q 催し物などの情報をどのように手に入れていますか

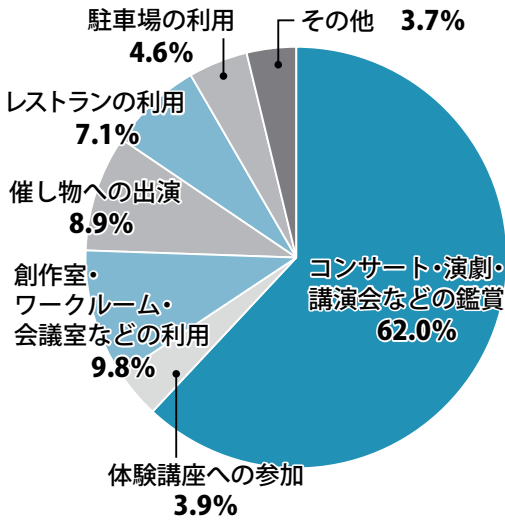


●解説

本市は、平成26年度に「都城市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、さまざまな子育て支援事業に取り組んでいます。これまでの事業効果を検証し、更なる取り組みの参考とするために調査しました。

本市は子育てしやすい、子育てに優しいまちであるかという問いに対して「そう思う」「やや思う」

Q 利用、または来館した目的は何ですか



●解説

過去1年間にMJを利用、または来館したことがある人は、54.4%でした。逆に、全くないと回答した人は42%となっていて、その理由は「あまり関心がない」が19.7%と最も多く、次いで「魅力ある公演や講座がない」16.3%、「時間が取れない」14.7%の順となっています。

都城市総合文化ホール(MJ)の利用